

町道路の維持補修

河川では改修に重点

〔土木費〕決算総額は、六千六百四十五万六千円で、全体の二・三パーセントを占めています。

項目別に見ると、道路橋梁費二千七百三十八万二千円、河川費千七百六十二万八千円、都市計画費二千九百九十七万七千円、住宅費三十四万九千円です。

道路関係では、府道中山・向日町線の拡幅工事の六百十八万四千円を負担し、また、万博関連事業として、都市計画道路一・三・四六号線（外環状線）の一文橋、国道二七号線に準る府道の造成工事の地元負担金千五百六十八千円を支出しました。

また、各部落の町道の維持補修、新設・改良に十三十六万六千円を支出しました。

河川関係では、おもに改修工事に力を注ぎ、昔谷幹線等河川排水路工事に七百五十九万四円、河川の改修工事に四百二十七万七千円、下流本谷の排水路改修に四百七十八千円を、計千七百六十二万八千円を支出しました。

橋梁事業として、石田川郡中水路の改修工事五百一十二万五千円を支出しました。



一文橋～国道171号線

特別会計

〔水道事業〕給水人口三千二百七十四人、給水件数九千二百七十七件と必要が加速度的に増加し、将来の需要を満すべく、本年度より四十七年度までの五カ年継続事業として、第七次拡張事業に着手しました。

本年度の事業は、第二浄水場内「深井戸一眼、急流ろ過機をすえつけ、今夏の大需要時をまかなひ、また第三浄水場用地買収および造成工事を完了しました。

経営面では、収입が八千八百六十四千円、支出が八千八百八十三千円、残額十三千八百一十千円の利益を生じました。

しかし、第七次拡張事業の元利償還金の返済を考えると、現時点からの返済時期に備えて経営面の合理化を進め、加入金制度の実施料金の随月徴収や事務合理化による経費の節減、人件費の削減、自己資本の充実に資する金利負担の軽減などの諸方策を講じ、対処してまいります。

〔国民健康保険事業〕歳入九千二百七十三万五千円、歳出八千二百

児童福祉費がおもに占める

〔民生費〕決算総額は、三千五百九十七万六千円で、全体の六・七パーセントを占めています。なかでも、児童福祉費が二千五百一十二万七千円と民生費の七〇・一パーセントを占めています。

第一・第二保育所の運営費あわせ千九百六十七千円、また委託児童では、三百九十八万九千円をあて保育に努めました。

さらに、児童福祉施設では、児童公園の整備、遊具の補充等を六十五万八千円で行ないました。

一方、社会福祉の面では、千七百四十二千円をあて、社会福祉・老人福祉を推し進めました。

昭和43年度決算

一般会計		
歳入	5億7,520万1,168円	
歳出	5億3,963万8,828円	
差引残額	3,556万2,340円	
水道事業		
収益的収入	8,206万3,907円	
収益的支出	6,888万3,290円	
資本的収入	1億982万9,800円	
資本的支出	9,896万5,003円	
国民健康保険事業		
歳入	9,273万6,066円	
歳出	8,025万5,008円	
差引残額	1,248万1,058円	

消防体制を強化

〔消防費〕決算総額は、二千六百三十四万円で、全体の四・八パーセントを占めています。

土地改良事業に重点

〔農林水産費〕決算総額は、二千八百八十八万五千円で、全体の四・二パーセントを占めています。

土型改良事業として、物集女の老朽なめ池（主池）補強工事に四百一十四万三千円、農業用排水路改修（寺戸・鶴野井・須大寺池）

〔国民健康保険事業〕歳入九千二百七十三万五千円、歳出八千二百

五万五千円、差引残額二千二百四十八万二千円となり、翌年度に繰越します。単年度収支では、百千八百円の黒字となっています。

歳入の面をみると、国民健康保険料三千六百二十五万六千円で徴収率九五・七パーセント、国庫支出金四千四百六十二万六千円で四十二年度比三二・三パーセント増となっています。

一方、歳出をみると、保険給付費が九一・三パーセントの七千三百二十五万七千円を占めています。

受診率は四十二年度比二・八・四パーセントの増を示しています。

国民健康保険が、かろうじて黒字を保った原因は、常に一般財源から先をきいた繰入れを行なったためです。しかし、将来の国民健康保険の運営は、差額を許さず、国に対して制度上の欠陥の是正が望まれ、苦しい台所は、当然響くことが予想されます。

〔役場庁舎の建設〕役場庁舎（寺戸小字中野・観音堂北隣、向日町警察署の西約百七十メートル）の建設工事は、順調に進んでいます。

新庁舎は、鉄筋三層建て（二部地下一部）で、本体は、ほぼできあがり、現在内部の整備とどりかかっています。

また、本体よりも進んでどりかかった機動棟もできあがり、新庁舎は、完成間近です。

なお、新庁舎は、こしし末に完成する予定です。